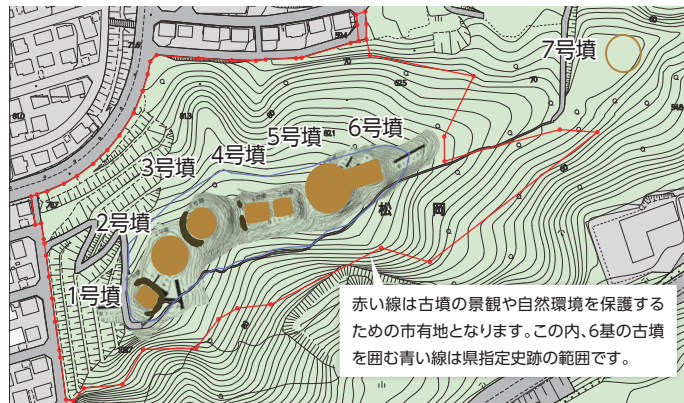


後世に残す歴史遺産

明治時代初めに古墳(7号墳)が発見された後、平成6年には住宅団地の開発により多くの古墳が破壊の危機に瀕しましたが、地元松岡地区の住民の保存活動により開発から逃れ、当時の姿が保存されてきました。これから大分の歴史遺産として後世に残していく史跡の一つです。



小牧山古墳群の指定範囲及び大分市の公有地

アクセス



大分市教育委員会 文化財課 TEL 097-537-5639

県指定史跡

小牧山古墳群

大分市教育委員会

県指定史跡

小牧山古墳群

指定／平成23年3月29日
所在／大分市松岡 時代／古墳時代

大野川を見下ろす松岡の丘陵に7基の古墳が築かれています。松岡地区には各時代を通して多くの文化財があり、そのうちの一つ、小牧山古墳群は古墳時代にこの地を治めた盟主の墓と考えられます。平成6年に宅地造成によって7基のうち6基の古墳が消滅の危機に瀕しましたが、大分県を代表する古墳時代の墳墓であることから、保存が図られ、平成23年3月29日に県史跡に指定されました。

古墳のある丘陵上からは、大野川や戸次方面の眺望が望めます。また、古墳を見ながら散策やウォーキングが楽しめるよう園路には、階段や休息のためのベンチなどを設けています。



自然を満喫できる眺望



古墳のある丘陵上からは、大野川下流域の戸次方面の平野部を一望でき、自然を満喫できます。

散策・ウォーキングコース

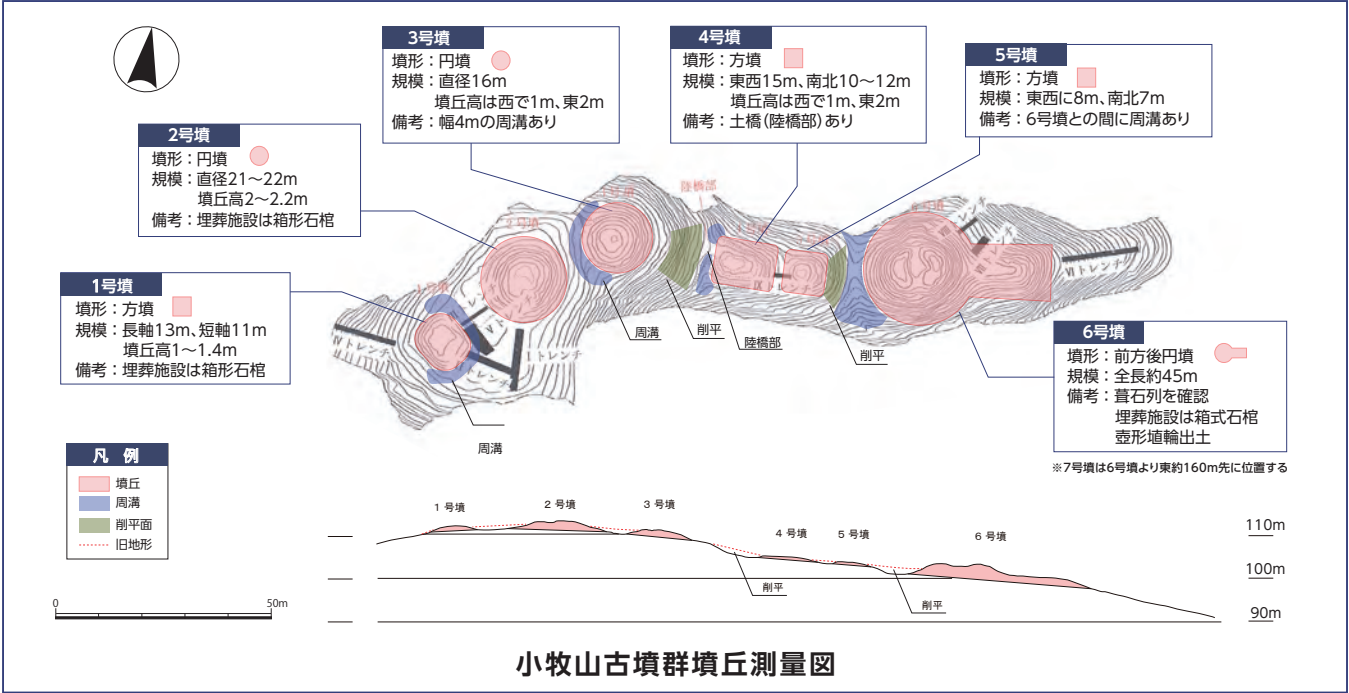


古墳を取り巻く木々の中で散策やウォーキングを堪能できます。
●線が1周約1km、比高差50mの散策・ウォーキングコースです。古墳のある丘陵上に休息のためのベンチを設けています。

様々な墳形の古墳見学



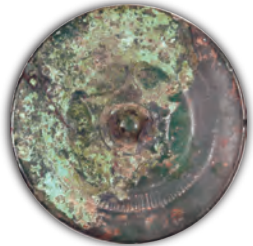
自然の木々の中に、円墳や方墳、前方後円墳など様々な形の古墳が良好に保存され、見学ができます。



小牧山古墳群4つの特徴	1. 古墳群の形成	2. 保存状態	3. 様々な形の墳丘	4. 古墳時代前期に造られる
	6基の古墳は、標高100～110mの丘陵上にあり、東西150mに渡って連続して分布しています。構築順は、最も西側に位置する1号墳の方墳から東側の標高100mに位置する6号墳の前方後円墳に向かって順次構築されたものと考えられています。	県内の前方後円墳を含む古墳時代前期の古墳群の事例としては、大分市の野間古墳群、宇佐市の川部・高森古墳群、竹田市の七ッ森古墳群等があります。その中でも小牧山古墳群は墳丘の保存状態が良く、当時の姿を残しています。	小牧山古墳群では、墳形が円墳が2基、方墳が3基、前方後円墳が1基見つかっています。一か所に3種類の墳形が見られ、それらが近接して順次構築されている古墳群は、県内では他に見当たりません。	前方後円墳である6号墳の墳形は、前方部が低く墳丘の端が広がらないこと、出土した埴輪から4世紀前半代であることが判明しています。最初に構築されたと考えられる1号墳や2号墳は3世紀代まで古くなる可能性が高いです。

最初の古墳の発見

現在の7号墳のある場所では、明治時代初めに村人によって組合せ式の箱式石棺が発見されました。石棺は、緑色の結晶片岩と呼ばれる坂ノ市から佐賀関にかけての山から取れる石を使っています。石棺からは、直径6.6cmの平縁式内行花紋鏡が出土しています。現在、鏡は国分にある大分市歴史資料館に展示されています。石棺の発見された場所は「小牧山古墳」と呼ばれるようになりました。



平縁式内行花紋鏡
(大分市歴史資料館所蔵)



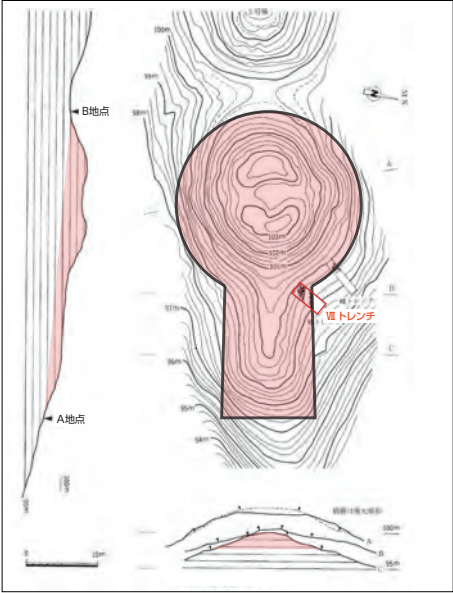
発見された箱式石棺の一部

6号墳

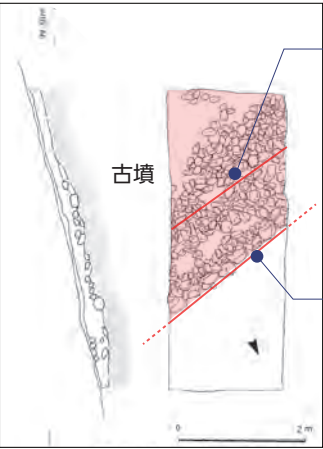
6号墳は、古墳群の最も東に位置しています。古墳の主軸は、前方部を東に向け、後円部を西に配置した全長45mの前方後円墳です。

前方後円墳の東端（6号墳墳丘測量図A地点）と西端（同B地点）の高低差は、3.5mあり、東下がりの傾斜地に築造しています。古墳の高さは、傾斜面を基準に後円部で3.6m、前方部で2mあり、前方部が低く平坦となっているのが特徴です。

前方部と後円部とのくびれ部は、調査により斜面に20～30cm大の河原石を敷き詰めていることが分かりました。古墳の裾に並べられた葺石（墳丘の表面に葺いた河原石）の列から、後円部から前方部に向かって、ほぼ長方形に延びた柄鏡式前方後円墳といわれる形状となっていることが分かりました。



古墳裾部と葺石の確認



古墳の裾から1mほど内側にも墳形に沿って30cm大の河原石を一列に並べ、さらに墳丘の斜面に沿って直径15～20cm大の石を積み上げていることが確認された。

古墳の裾の基底部には、30cm大の河原石を置いて並べ、墳丘側に直径15～20cm大の石を2～3段積み上げた葺石が平坦に並べた状態で確認された。

Ⅶトレンチ（くびれ付近）の平面・断面図



葺石に混ざって壺形の埴輪、石棺材の結晶片岩が多数確認された。



はにわ埴輪の出土状況

Ⅶトレンチ（くびれ付近）の葺石の状況

6号墳出土の埴輪

6号墳からは、葺石に混ざって壺形の埴輪が見つかりました。埴輪の特徴としては、胴部が丸く壺の形をしたもので、壺の底は初めから穴が開けられています。口縁は二重に折り曲がって開いています。他にも胴部が長いタイプのものや埴輪のをせる台などが見つかりました。埴輪は、古墳上や裾に供えられていたものであり、古墳の年代を決める貴重な資料となっています。

